



## 当院のDEXAをご活用ください

産婦人科

長谷川 徹



超高齢社会となり骨粗鬆症が増加しています。脳卒中や心疾患と同様に健康寿命に大きく影響するため社会的な重要課題としての認識が高まっています。とくに女性は閉経に伴うエストロゲン低下により骨密度の低下が加速するため、それに対する積極的な介入が重要と私たちは考えています。

当科で骨粗鬆症の薬物治療のため1年以上通院している方は現在117名いて、平均年齢は63.4歳、平均治療期間は7年(1-16年)でした。骨密度を測定した理由は、健診・ドック、乳がん術後のアロマターゼ阻害薬使用、婦人科術後のフォロー、更年期障害、骨折歴ありなどでした。治療法はビスホスホネート、SERM、活性型ビタミンD3、HRT、デノスマブなどで、多くの方

で骨密度が増加または維持されました。

現在も新規治療薬が登場し骨粗鬆症診療は日進月歩ですが、必要な患者に治療が行われず骨折を来している例がまだまだ多数存在すると思われます。そのような将来の骨折リスクがある方がおられましたら思春期から老年期まで問わず当科に紹介していただければ幸いです。また骨粗鬆症治療薬の処方をしていて骨密度の把握をしておきたい方にも当院のDEXAをご活用ください。受診当日に骨密度測定と患者さんへの結果説明を行います。どうぞよろしくお願いたします。



# 緩和ケア病棟の再開

富山市民病院 院長 家城 恭彦

令和6年10月1日より、南病棟3階において緩和ケア病棟が再開されます。平成19年1月に国から「地域がん診療連携拠点病院」に指定され、平成21年4月に初めて当院に緩和ケア病棟が開設されました。しかし、令和2年4月、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、患者隔離や感染制御のため、トイレ付き個室を多く有する緩和ケア病棟をコロナ対応病棟に転用せざるを得ず、いったん休止となっていました。今回、コロナ禍の混乱が一段落し、緩和ケア専門医や従事する職員の確保にも目処が立ったことを受け、前回と同じ南病棟3階での再開に漕ぎ着けました。これにより、切れ目のない質の高い緩和ケアを提供する体制が再び整うこととなり、地域連携拠点病院としてがん診療を行ってきた当院にとって、そして何よりもがんと共に生きる患者さんにとっても、誠に嬉しい限りです。

そもそも緩和ケア病棟とは、がんやその他の病気の進行に伴う心身の苦痛を和らげるために、専門的なケアを提供する病棟のことです。がんそのものに対する治療は行わず、患者さんの意思やご家族の希望を尊重しながら、自分らしく過ごせるよう治療やケアを行います。そこでは、緩和ケア専門の医師や看護師のほか、薬剤師、ソーシャルワーカーなどの多職種がチームを組んで、患者さんとそのご家族に寄り添ったケアを行います。さらに、精



神科医や心理療法士も加わり、精神面でのきめ細かいサポートも行います。

一方、設備面においては、一般の病棟とは異なり、できる限り日常生活に近い暮らしができるような配慮がなされています。具体的には、ご家族が患者さんのそばで宿泊できるソファベッドを備えた病室や、くつろぎの場となる談話室や屋上庭園、ご家族が休息を取れる家族室、簡単な料理ができるキッチン、ご家族にもご利用いただけるお風呂などもありますので、入院中とはいえ自宅にいるかのように自由にお過ごしいただくことができます。

今回の緩和ケア病棟再開により、患者さんとそのご家族が抱える様々な苦痛が少しでも緩和され、生活の質を保ち、その人らしく最期まで生きることができるよう、緩和ケアチームが全力で支えていきます。



# 研修・講演・学習会のご案内



## 1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催）

日時：10月8日（火） 19：00～20：00

場所：当院3階 講堂

### 1) 症例検討

『術前化学療法後にconversion surgeryを施行したcStageIVA胃癌の1例』

外科 中村 紗都

### 2) ミニレクチャー

『精神科領域にて注目されている“新興薬剤”

「持続性注射剤」「経皮吸収型製剤」について』

精神科 陸田 典和

精神科領域では従来の錠剤・カプセル・細粒剤/散剤、注射薬に対して、新しいメカニズムを持った薬剤、すなわち①「持続性注射剤（LAI：Long-Acting Injection、デポ剤）」や②「経皮吸収型製剤（貼付剤）」が新たに誕生している。これらは従来の薬剤にはない特徴があり、例えば①持続性注射剤は4週～12週間に1回の注射でよく、内服の手間から解放され、飲み忘れも防ぐメリットが期待される。②経皮吸収型製剤は内服困難な症例でも使用可能であり、薬剤アドヒアランス（服薬遵守）を視覚的に確認できると

いう意義がある。またこれら持続性注射剤と経皮吸収型製剤は体内の薬剤血中濃度が至適濃度で安定することで、副作用の軽減や治療効果の安定に寄与することが示されている。特に統合失調症や双極性感情障害での治療では持続性注射剤と経皮吸収型製剤は画期的な治療効果を上げており、当科でも多くの症例で使用している。今回はこれら、いわば“新興薬剤”について触れていきたい。また従来の薬剤との使い分けや、実際の使用例についても提示する。

予告

日時：11月12日（火） 19：00～20：00（ハイブリッド開催）

場所：当院3階 講堂

内容：①症例検討 1例（担当）血液内科

②ミニレクチャー 1題（担当）産婦人科

## 2. 糖尿病研究会

日時：10月17日（木） 17：45～18：30

場所：当院3階 301会議室

テーマ：運動療法の具体的な説明ってどうすればいいの？

講師：理学療法士



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

## 特定行為看護師のおしごと

リエゾン看護エキスパートナース  
吉川 侑希

昨年1年間の研修を経て、特定行為38行為21区分のうち6行為4区分を修了しました。3月に修了し、現在まで50症例ほど特定行為を実施させていただきましたが、その中でも動脈血液ガス分析関連区分の特定行為が最も多い特定行為でした。

救急科に所属していたころ、看護師が静脈採血を行う際に、動脈血採血を実施することができれば、少しでも早く患者さんの状態把握や診療効率を高めることに繋げられるのではないかと考えたことが取得の動機になりました。



現在は集中治療室に配属となり、診療の補助として、心臓カテーテル治療後や全身状態不良の患者さんへの橈骨動脈ラインの確保、急変時に動脈血採血の実施を救急科や一般病床でも採血を実施しています。また、定時的に動脈血採血の結果を診たい場合、医師が不在でも、医師の指示のもとタイムリーに採血を実施し報告することができます。症例を重ねる中で、患者さんへの侵襲が大きい分、与えられた責任や自己研鑽の必要性をより感じるようになりました。今後は、自分も特定行為ができる看護師になりたい!と後進の方に思っていただけのように活動の場を広げ、実施症例を増やしていければと考えています。

## 医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

10月

科名	医師名	不在日	科名	医師名	不在日
内科	水野	30日	皮膚科	野村佳	15日
	堀井	4日		東	28日、29日
整形外科・ 関節再建外科	重本	11日	脳神経外科	毛利	16日、18日
	長谷川徹	17日、18日	形成外科	宮下松	16日、17日、18日
産婦人科	谷	24日		稲垣光	15日
	歯科口腔外科	寺島	21日、22日、28日、29日	麻酔科	津田
朽名		9日、18日			
石坂		9日(午後)、10日、11日			

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112(代) 内線2168

## 編集後記

カタール富山の応援に行きませんか?

富山県総合運動公園ではJ3リーグ、カタール富山の試合が行われています。みなさん応援に行ってみませんか?

こんな暑い中サッカー観戦なんて…と思う人もいると思いますが、心配いりません。サマータイムは18時からのキックオフです。日焼けの心配はありません。

90分もサッカー観戦なんて…心配いりません。スタジアムにはキッチンカーがズラリと並んでいます。スタジアムグルメを満喫してください。

どうせ負けるんでしょ…心配いりません。カタール富山は現在J2復帰に向け熱戦を繰り広げています。せっかく富山にあるチーム。みんなで盛り上げませんか?興味がわいた方、県総でお会いしましょう!

ふれあい地域医療センター 新井 恵美

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1112(代) / FAX 076 (422) 1154  
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp



ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp